

週明けの3月9日の国内市場も下落

- 新型コロナウイルスの影響で週明けのTOPIXは5.6%下落、東証REIT指数は6.4%下落しました。（前週末比）
- 米国の対策が本格化していることもあり、次第に日本市場も回復に向かうとみています。

週明け3月9日の主要国株式市場は全面安の展開

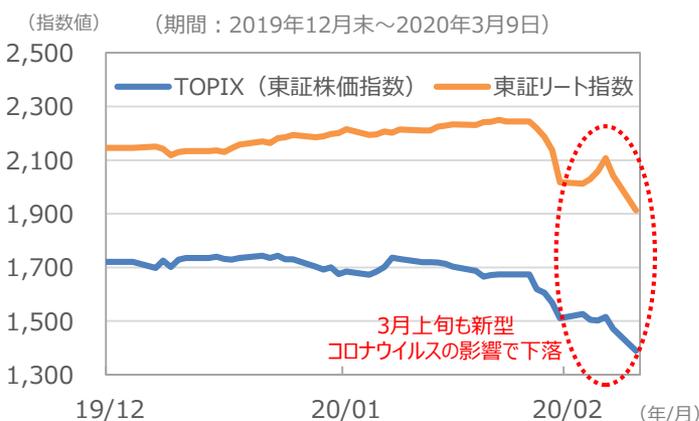
- 新型コロナウイルスの感染拡大懸念が広がっており、週明けの3月9日のTOPIX（東証株価指数）は5.6%の下落、東証REIT指数は6.4%の下落となりました。その後の欧州や米国の株式市場の下げはさらに大きく、欧州株式8%程度*下落、米国市場では、取引開始後サーキットブレーカーが発動するなどの混乱ぶりです。2008年の金融危機後最大の下げとなる7.6%*の下落となりました。
- 原油価格が3月9日だけで25%近く下落し、投資家の不安心理を反映する恐怖指数（VIX指数）が急上昇、質への逃避から各国の国債利回りが急低下していることも、市場全体を過度に神経質な展開にさせています。一方で、欧米でも対策は本格化し始めている状況です。

各国の対策（特に米国）の本格化により、国内市場にも安心感が戻るとみています。

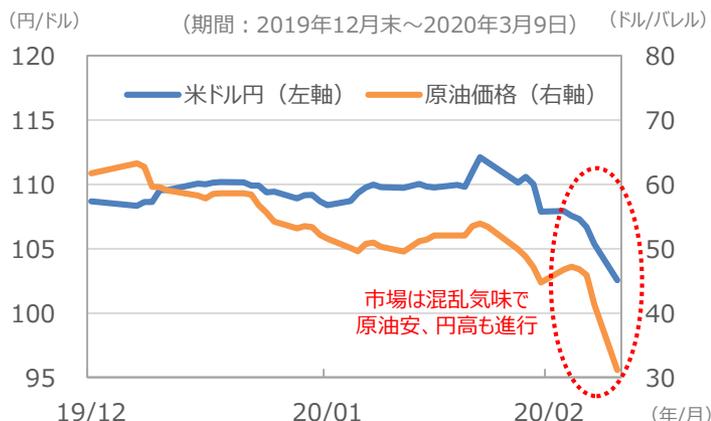
- 各国の金融市場の混乱収束には、市場の牽引役である米国市場が落ち着きを取り戻すことが欠かせない状況です。金融政策の面では、FRB（米連邦準備制度理事会）は3日に緊急の利下げ（0.5%）を実施し、今後、更なる利下げが実施されると思われます。より直接的な効果が期待できる財政出動も本格化し始めており、6日に成立した「新型コロナウイルス・ファンディング法」には、新型肺炎予防や州府対策費、海外での感染拡大防止支援、中小企業向け低利ローン提供、などが盛り込まれました。さらに、米国政府は、被害の大きい業界（空運業、農業等）の支援を含む経済パッケージ、中小企業の支援策、などを検討しているとの話もあり、状況は次第に改善方向に向かうと考えています。
- 日本においても、経済活動の停滞で資金繰りに不安を抱える企業を支えるため、危機対応融資を発動する方針が伝えられています。財政投融資を活用し、中小企業等に実質無利子、無担保の融資で支援するなどの安全網を広げています。日本では感染拡大が他国と比べると抑えられおり、米国市場などが落ち着きを取り戻せば、国内市場にも安心感が生まれ、先月末頃から進行している円高が円安に転じることなどで、他市場よりも回復が早まる可能性があると考えています。

* 米国株式の騰落率はS&P500種株価指数、欧州株式の騰落率はDAX指数、FTSE100指数をベースに算出。

東証株価指数（TOPIX）の推移



米ドル円、原油価格の推移



出所：FactSetデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

※当資料の内容は、過去の実績および作成時点での弊社見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。